

浮世絵に学ぶ

～江戸の暮らし

江戸に暮らす人々にとって、季節とそれにまつわる祭りや年中行事は、身近な、「暮らし」そのものでした。そこには、人間の生活が自然に溶け込み、無理をかけず、ひとつのものを丁寧に作り、大切に使い、再利用され自然に還っていく、無駄のない循環型の暮らしが見えてきます。

そんな江戸の暮らしや人々の表情が生き生きと描かれている広重の浮世絵。その作品の世界に、そっと足を踏み入れ、ゆっくりと向き合ってみれば、人々がどれだけ季節の移ろいを大切に、自然と共に生きてきたかを感じることができるはずです。広重の作品とじっくり対話し、たくさんのお出合いをみつけてください。



● 展示室

初代～三代広重の浮世絵版画を中心に、毎月テーマをかえて展示を行っています。

● 刀剣資料コーナー

片岡銀作押型コレクションと月山の銘刀を展示しています。

※企画によってご覧いただけない場合がございます

● 図書資料コーナー

展示会図録や美術書籍を中心とした図書資料およそ1万冊が閲覧できるスペースです。

ご利用案内

開館時間 4～10月 9:00～18:00
11～3月 9:00～17:00
(入館は閉館30分前まで)

休館日 火曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)、
展示替え期間
※くわしくはナカ面のカレンダーで
ご確認ください

入館料 大人 600円(500円)
学生 400円(350円)
小中学生 300円(250円)

※()内は、15名様以上の団体料金
※未就学児は無料
※シニア(満75歳以上)400円
※障がい者(同伴1名まで)半額



JR天童駅から徒歩15分/駐車場15台(無料)

広重美術館
HIROSHIGE MUSEUM OF ART

〒994-0025

山形県天童市鎌田本町1-2-1

tel.023-654-6555

fax.023-654-6554

e-mail info@hiroshige-tendo.jp

URL <http://www.hiroshige-tendo.jp/>

当館は、天童温泉「ほほえみの宿 滝の湯」のコレクションを展示しています。

2017

広重美術館

HIROSHIGE MUSEUM OF ART



天童と広重



「吉野の桜 龍田川の紅葉」(天童広重)

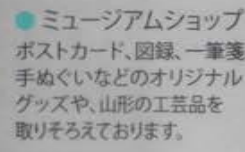
江戸時代後期、江戸詰の天童藩士や藩医の田野文仲と交遊のあった歌川広重(1791～1858)。当時、天童織田藩は財政が苦しく、藩内外の裕福な商人や農民に献金を募ったり、借金をしていました。その御礼や返済の代わりとして、江戸で有名な浮世絵師、広重に描いてもらった肉筆画を与えたのです。現在この一連の作品群は「天童広重」と呼ばれています。当時は200～300幅くらい描かれたといわれていますが、現在天童市近郊で確認できる数はわずかとなってしまいました。こうした広重とのお縁にちなんで、生誕200年にあたる1997年4月、湯のまち天童に広重美術館が開館しました。

施設のご案内



● ロビー・ラウンジ

紅と藍のスタンドグラスのやわらかな光が差し込むロビー。映像で「浮世絵ができるまで」をご覧いただけます。



● ミュージアムショップ

ポストカード、図録、一筆箋、手ぬぐいなどのオリジナルグッズや、山形の工芸品を取りそろえています。

